

(7) び わ

| 防除法   | 防除のポイント  | 薬 剤 防 除   |                                      |  |
|---|--|---|--------------------------------------|--|
|   |  | 防除時期  | RACコード                               | 薬 剤  |
| 病害虫名<br>1 がんしゅ病<br><i>Pseudomonas syringae</i> pv. <i>eriobotryae</i>   | 1. 病枝を切り取る。<br>2. 罹病部を削り取り、接ぎろうを塗布する。<br><b>〈薬剤使用の特記事項〉</b><br>1. 本病対象にZボルドーを散布しているところでは、芽枯症の発生が少ない(3~5月)。<br>2. Zボルドー、カスミンボルドー、銅パーシム水和剤は、炭酸カルシウム剤(クレフノン)を加用する。<br>3. カスミンボルドー、銅パーシム水和剤は、幼果の横径約1cm以降の散布は避ける。<br>4. ICボルドー66Dは幼果期以降収穫までは使用しない。<br>5. ICボルドー66D、コサイド3000はビワ(葉)にも登録がある。 | 発 病 初 期<br>( 6 月 中 下 旬<br>7 月 中 下 旬<br>8 月 下 旬 ~<br>9 月 上 旬 ) | M1<br>M1<br>M1<br>24・M1<br>24・M1     | コ サ イ ド 3 0 0 0<br>Z ボ ル ド ー<br>I C ボ ル ド ー 6 6 D<br>( 混 ) カ ス ミ ン ボ ル ド ー<br>( 混 ) カ ッ パ ー シ ン 水 和 剤                                  |
| 2 灰斑病<br><i>Pestalotiopsis funerea</i><br><i>P. neglecta</i><br><i>Pestalotia eriobotryfolia</i><br><i>Seiridium</i> sp.<br><i>Neopestalotiopsis</i> spp. | 1. 樹勢を強くし、日当たりや通風を良好にする。<br>2. 病葉を集めて処分する。<br><b>〈薬剤使用の特記事項〉</b><br>1. 本病を対象にトップジンM水和剤を散布しているところでは、たてぼや病の発生が少ない。<br>2. カスミンボルドー、銅パーシム水和剤は、炭酸カルシウム剤(クレフノン)を加用する。<br>3. カスミンボルドー、銅パーシム水和剤は、幼果の横径約1cm以降の散布は避ける。   | 発 病 初 期<br>( 4 月 上 旬 ~<br>5 月 中 旬 、<br>6 月 中 下 旬 )            | 1<br>1<br>12<br>M7<br>24・M1<br>24・M1 | ト ッ プ ジ ン M 水 和 剤<br>ベ ン レ ー ト 水 和 剤<br>セ イ ビ ア ー フ ロ ア ブ ル 2 0<br>ベ ル ク ー ト 水 和 剤<br>( 混 ) カ ス ミ ン ボ ル ド ー<br>( 混 ) カ ッ パ ー シ ン 水 和 剤 |
| 3 ごま色斑点病<br><i>Entomosporium mespili</i>  | 1. 病葉を集めて処分する。   | 発 病 初 期   | 1<br>1                               | ト ッ プ ジ ン M 水 和 剤<br>ベ ン レ ー ト 水 和 剤   |
| 4 灰色かび病<br><i>Botrytis cinerea</i>  | 1. 園内の通風、採光を良好にする。<br>2. 圃場の排水を良好にする。  | 発 病 初 期   | 2<br>9<br>M7                         | ス ミ レ ッ ク ス 水 和 剤<br>フ ル ピ カ フ ロ ア ブ ル<br>ベ ル ク ー ト 水 和 剤  |
| 5 白紋羽病<br><i>Rosellinia necatrix</i>  | 1. カンキツの紋羽病に準じる。   | 収 穫 後 ~ 開 花 前<br>収 穫 後<br>7 月 上 旬 ~<br>9 月 上 旬<br>開 花 前       | 29<br>1<br>6                         | フ ロ ン サ イ ド S C<br>ト ッ プ ジ ン M 水 和 剤<br>フ ジ ワ ン 粒 剤  |
| 6 切り口及び傷口のゆ<br>合促進  |  | せん定整枝時、<br>病患部削り取り<br>直後及び病枝切<br>除後                           | 1                                    | ト ッ プ ジ ン M ペ ー ス ト  |
| 7 鉢巻症<br>(生理的)  | 1. 凍霜害を防止する。<br>2. 防風垣を作り、寒風を遮る。<br>3. 開花期の遅い品種を栽培する。<br>4. 適地を選ぶ。   |   |                                      |  |

農薬の使用方法や注意事項はラベルで確認する

| 防除法<br>病害虫名                    | 防除のポイント  | 薬 剤 防 除                         |  |  |
|--------------------------------|--|---------------------------------|--|--|
|                                |  | 防除時期                            | RACコード   | 薬 剤  |
| 8 カミキリムシ類                      | 1. 6～8月の成虫発生期に捕殺する。<br>2. 産卵期からふ化時に園内を見回り、幼虫を刺殺する。<br><br><b>〈薬剤使用の特記事項〉</b><br>1. 園芸用キンチョールEはクワカミキリに登録がある。  | 発 生 時                           | 3A<br>3A   | 園 芸 用 キ ン チ ョ ー ル E<br>ロ ビ ン フ ッ ド   |
| 9 アブラムシ類                       | 1. 下草、周辺雑草を処分する。<br><br><b>〈薬剤使用の特記事項〉</b><br>1. 本虫対象に防除を実施しているところでは、チョッキリゾウムシ、ナシヒメシンクイ、ハマキムシ類の発生が少ない。<br>2. ロディーくん煙顆粒は有袋栽培での登録である。  | 発 生 初 期                         | 1A<br>1B<br>3A<br>3A<br>3A<br>3A<br>3A<br>4A<br>4A<br>4A | オ リ オ ン 水 和 剤 4 0<br>マ ラ ソ ン 乳 剤<br>ア デ ィ オ ン 水 和 剤<br>ス カ ウ ト フ ロ ア ブ ル<br>テ ル ス タ ー 水 和 剤<br>マ ブ リ ッ ク 水 和 剤 2 0<br>ロ デ ィ ー 水 和 剤<br>ア ド マ イ ヤ ー フ ロ ア ブ ル<br>モ ス ピ ラ ン 顆 粒 水 溶 剤<br>モ ス ピ ラ ン S L 液 剤 |
|                                |  | ハ ウ ス 内 防 除<br>(く ん 煙 )         | 3A   | ロ デ ィ ー く ん 煙 顆 粒  |
| 10 ビワキジラミ                      | 1. 葉裏に寄生した成虫やすず病の発生を目印として、早期発見に努める。<br>2. 作業性の良い低樹高化を図るとともに、摘房・摘蕾、花カス除去と合わせた摘果を実施する。<br><br><b>〈薬剤使用の特記事項〉</b><br>1. 発生が多くなる開花初期（秋期）と袋掛け前（春期）の薬剤散布を基本とする。<br>2. 花芽基部などの隙間に隠れている幼虫は薬剤がかかりにくいいため、秋期は摘房・摘蕾後に薬剤散布し、春期は摘果と花カス除去後に薬剤散布し、速やかに袋掛けをする。<br>3. 薬剤散布時の注意点<br>・湿展性の高い展着薬剤を加用する。<br>・樹の大きさに合わせた十分な散布液量とし、散布ムラの無いよう丁寧に散布する。 | 発 生 初 期                         | 1A<br>1B<br>3A<br>3A<br>4A<br>4A<br>4A<br>21A<br>23      | オ リ オ ン 水 和 剤 4 0<br>マ ラ ソ ン 乳 剤<br>ス カ ウ ト フ ロ ア ブ ル<br>ロ デ ィ ー 水 和 剤<br>ア ル バ リ ン 顆 粒 水 溶 剤<br>ス タ ー ク ル 顆 粒 水 溶 剤<br>モ ス ピ ラ ン 顆 粒 水 溶 剤<br>サ ン マ イ ト 水 和 剤<br>モ ベ ン ト フ ロ ア ブ ル                      |
| 11 ナシマルカイガラムシ<br>(サンホーゼカイガラムシ) | 1. タワシなどでこすり落とす。<br><br><b>〈薬剤使用の特記事項〉</b><br>1. アブロード水和剤の注意事項<br>・カイガラムシ類幼虫に対する登録である。<br>・使用時期に注意する。<br>2. マシン油の高温時の散布は薬害のおそれがあるので注意する。   | 5月下旬～<br>6月中旬<br>(ただし<br>収穫終了後) | 16   | ア ブ ロ ー ド 水 和 剤  |
|                                |  | 8 ～ 9 月                         | UNM<br>UNM<br>UNM  | ス ピ ン ド ロ ン 乳 剤<br>ト モ ノ ー ル S<br>ハ ー ベ ス ト オ イ ル  |
| 12 ナシヒメシンクイ                    | 1. 冬期に樹幹にバンド巻きを行い、2月頃に取りはずして処分する。<br>2. 果実の袋かけを行う。<br><br><b>〈薬剤使用の特記事項〉</b><br>1. 本虫対象にパダンSG水溶剤で防除を実施しているところでは、ハマキムシ類、アブラムシ類の発生が少ない。  | 春 芽 伸 長 初 期                     | 14   | パ ダ ン S G 水 溶 剤  |
| 13 ケムシ類                        | 1. せん定時に卵がついている枝を切り取る。   | 発 生 初 期                         | 11A<br>11A<br>11A  | デ ル フ ィ ン 顆 粒 水 和 剤<br>エ ス マ ル ク D F<br>フ ァ イ ブ ス タ ー 顆 粒 水 和 剤  |

びわ

| 防除法<br>病害虫名          | 防除のポイント   | 薬 剤 防 除 |                |                                    |
|----------------------|---|---------|----------------|------------------------------------|
|                      |   | 防除時期    | RACコード         | 薬 剤                                |
| 14 ビワサビダニ<br>(たてぼや病) | 1. 施設栽培では、夏季に天井のビニール被覆を除去する。  | 開 花 初 期 | 21A<br>21A     | ダニトロンフロアブル<br>サンマイト水和剤             |
| 15 ハダニ類              | 1. カンキツ、ナシ等他の好適な寄主植物から移動する場合がありますので注意する。<br><br><b>〈薬剤使用の特記事項〉</b><br>1. サンマイト水和剤はミカンハダニに登録がある。<br>2. ビワは新しい葉に毛茸が多く、薬液が付着しにくいので、十分量を散布する。   | 発 生 初 期 | 21A<br>21A     | ダニトロンフロアブル<br>サンマイト水和剤             |
| 16 カメムシ類             | 1. 早期に袋掛けを行う。<br>2. 施設栽培では、開放口をネット（4mm目合以下）で覆う。<br><br><b>〈薬剤使用の特記事項〉</b><br>1. 果実への寄生が認められる場合は、直ちに薬剤散布を行う。<br>2. 成虫は山林原野から夕方に飛来し、夜間加害するので、防除は夕方に一斉に行う。<br>3. 周辺にスギ、ヒノキ等の多い園や、過去に被害の認められた園では特に注意する。<br>4. ビレスロイド系剤(RACコード3A)の注意事項<br>・ 蚕毒が特に強いので注意する。<br>・ 散布後、ハダニ類が増えることがあるので注意する。 | 4月下旬～6月 | 3A<br>3A<br>4A | テルスター水和剤<br>ロディー水和剤<br>アドマイヤーフロアブル |